



| 主なご指摘事項 (※) | 対応方針等 |
|---------------------------|---|
| <p>他事例に関するご指摘</p> | <ul style="list-style-type: none"> 発生土置き場に関する他事例の情報について、引き続き、情報収集し、<u>論点整理の結果も踏まえて、共有していく方針</u>です。 |
| <p>調査に関するご指摘</p> | <ul style="list-style-type: none"> <u>調査の種類によっては実施できる時期が限られることから、本有識者会議の委員の助言をもらいつつ、必要な調査を順次進めていく方針</u>です。 参考資料として、<u>現在、J R東海が実施中（実施予定）の調査</u>についてお示ししております。（参考資料1） |
| <p>水資源のこれまでの議論に関するご指摘</p> | <ul style="list-style-type: none"> <u>水資源の有識者会議でどんなところまで分かっているかなど、前の有識者会議の積み残した問題として、この有識者会議とは別途、まとめる必要があるのではないか。</u> 水資源に関して過去に議論をしたが、それで地下水に関わる問題の全てを議論したということではない。<u>その中で何が議論されたのかなどを整理しておく必要があるのではないか。</u> <ul style="list-style-type: none"> 昨年12月の中間報告においては、水資源への影響として、 <ol style="list-style-type: none"> トンネル掘削に伴う大井川表流水への影響 <ul style="list-style-type: none"> 導水路トンネル出口よりも上流側の河川流量はトンネル掘削とともに減少する 導水路トンネル出口より下流側については、トンネル湧水量の全量が大井川に戻すことで中下流域の河川流量は維持される トンネル掘削に伴う中下流域の地下水への影響 <ul style="list-style-type: none"> 中下流域の河川流量が維持されることで、トンネル掘削による中下流域の地下水量への影響は、河川流量の季節変動や年毎の変動による影響に比べて極めて小さいと推測される 工事期間中のトンネル湧水の県外流出の影響 <ul style="list-style-type: none"> 工事期間中に県外流出が発生した場合においても、中下流域の河川流量は維持される解析結果となった。これらの解析結果は一定の前提を置いた上での計算結果であり不確実性を伴う 今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> J R東海は、過去に同社がトンネル湧水の全量が大井川に戻すことを表明したことを踏まえ、県外流出量が大井川に戻す方策について、関係者の納得が得られるよう協議すべきについて、とりまとめています。（参考資料2-1、2-2） <p>(注) 中間報告では、何も対策をしない場合、上流域において<u>流量が減少する可能性のある河川・沢やその程度などは示していない。</u></p> 本有識者会議では、河川・沢の位置や動植物の生息状況などを考慮しながら、上流域における河川・沢の流量等への影響を検討することで、トンネル掘削に伴う生態系への影響を議論していく方針です。 |

(※) 第17回有識者会議での議論を踏まえ、事務局にて対応すべき主な指摘事項について整理。（その他指摘事項は、論点整理等において対応予定）